

## 第二回俳句賞「25」奨励賞

ゆるやかに

神奈川県立横浜翠嵐高等学校

「あっ」と言うて始まる会話草紅葉  
逢引の理由になれよ秋螢  
検索窓「栗のレシピ」と入れてみる  
秋時雨ポストの色の薄くなり  
こちらもうすっかりふゆです毛糸編む  
引越してオリオンの星一つ欠け  
湯冷めして鏡に知らぬ黒子ある  
聖樹の背越したる我を母が見る  
冬晴の朝包装紙やぶる音  
時雨きて地の斑点となるばかり  
寒柝を聞きつつ『頻出英単語』  
眼鏡外せばまんまるの月寒し  
君の手に冬日を透かす赤シート  
冬深し火傷の舌のひりひりと  
ジョナサンのパフェ食べ終えて冬夕焼  
湯気立てて身体の骨をやわらかく  
「湯冷した？」やけに気にしてくれる君  
地下鉄を出てローソンと冬銀河  
寒帛紙で切りたる指の先の死す  
悴みてめくるページにKの撫づ  
雪の日のアザラシの剥製を撫づ  
冬の雲見とおれば二分ほどは過ぎ  
冬の雨光っておおぬ東横イン  
麦の芽を踏み潰し君忘れゆく  
ランドセルの底に潰れし寒椿